

(別紙)

水稻の出穂状況（8月10日現在概況速報）について

- 1 8月10日現在、県全体で84%の水田で出穂したとみられる。
地帯別の出穂割合は、北上川上流84%、北上川下流87%、東部62%、北部64%である。
- 2 県全体の出穂始期（10%出穂）は8月1日頃（平年差：-2日）、出穂盛期（50%出穂）は8月6日頃（平年差：±0日）であり、出穂は平年並であった。

表1 水稻の地帯別出穂状況（8月10日現在 各農業改良普及センター調べ）

農業地帯	出穂時期(月/日)								
	本年			平年			平年差(日)		
	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期
北上川上流	8/1	8/6	(8/10)	8/2	8/6	8/10	-1	0	(±0)
北上川下流	8/1	8/6	(8/10)	8/3	8/6	8/10	-2	0	(±0)
東 部	8/3	(8/8)	(8/13)	8/3	8/7	8/11	0	(+1)	(+2)
北 部	8/4	(8/8)	(8/13)	8/4	8/7	8/11	0	(+1)	(+2)
県 全 体	8/1	(8/6)	(8/10)	8/3	8/6	8/10	-2	(±0)	(±0)

- 注) 1 平年値：平成19年～28年の10カ年平均値
2 出穂割合：市町村ごとの出穂している水田の割合
3 出穂時期：市町村単位での判定。始期：10%出穂、盛期：50%出穂、終期：90%出穂
4 出穂割合が50%を超えていても、市町村ごとに到達していない場合は確定できないため、カッコつきの推定値として記載している。

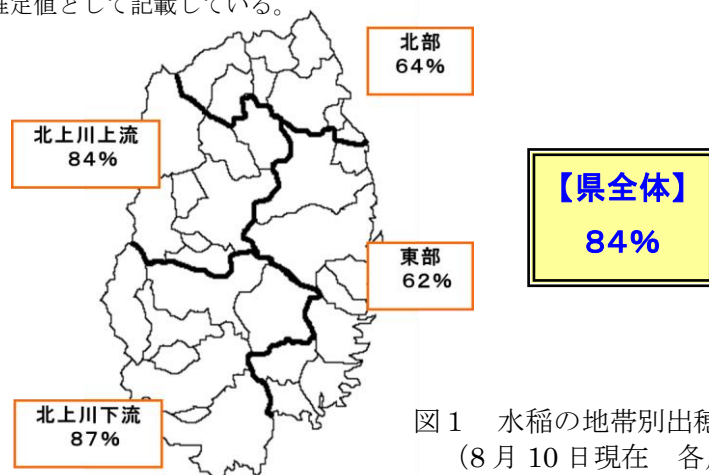


図1 水稻の地帯別出穂割合
(8月10日現在 各農業改良普及センター調べ)

3 栽培管理のポイント

- (1) 東北地方の1か月予報（仙台管区气象台，8月10日発表）によると、向こう1か月の平均気温は、低い確率が50%と予想されている。
- (2) 開花終了後は間断灌がいを基本とする。早期落水は、収量や品質低下の原因となるので避け、出穂後30～35日経過してから完全落水とする。
- (3) 斑点米の原因となるカスミカメムシ類の発生量は「多」の予想である。水稻の生育に合わせ、穂揃1週間後の薬剤防除を徹底すること。
- (4) 穂いもちの重要な伝染源となる上位葉（止葉、次葉、第3葉）への発生は、ほぼ平年並であるが、上位葉での葉いもち多発時には確認次第直ちに防除を実施し、穂揃期1週間後まで7～10日間隔で茎葉散布による防除を実施すること。
- (5) 刈取時期に関する今後の情報に注意し、適期収穫できるよう、コンバインや乾燥調製施設の清掃・整備を行うこと。